

令和6年度

## 中学校A日程入学試験問題

### 国語

#### 受験上の注意

- ◎ 時間……………50分
- ◎ 解答はすべて、別紙解答欄に記入すること。
- ◎ 字数制限のある場合、句読点、カギなどの記号も字数に入れるものとする。

第一問題 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（なお、本文では関西方言が用いられている。）

【「俺」（英一）は、部長の菅野七生にリズム感を買われて吹奏楽部（ブラバン）に入部した。学校でたった一人の音楽教師である細井先生は合唱部の顧問をしていて、吹奏楽部は指導をしてもらえない。顧問の西先生は指導ができず、引率しかできないので、家が楽器店の七生の指導でいつもは練習している。吹奏楽部が指導者なしで活動しているのが気に食わない細井先生は、七生としきりに言い争いになっていた。】

放課後、新しい校舎のほうの音楽室に七生が放送で呼び出された。俺もそれ聞いて、なんやろな？と思つてたら、武司が息切れして俺を呼びにきた。七生一人で行かせたら先生とケンカしてまうから、俺たちもついて行こうというわけやつた。

武司と俺と四組に分つて雅恵も連れて、新校舎三階の音楽室に急いだ。たぶん、音楽準備室のほうにいるはずや。ほら、中からもんのすごい怒鳴り声が……え、怒鳴り声え？

「今ごろになって何ゆうてるんや！ 一度も練習見たことないくせに勝手なことゆうなよ！」

七生の声。やけど、先生相手のはずやのに、敬語が抜けてる。なにごとも①そつのない七生らしくないな。よっぽど※1逆上してるんやろか。

ドアをノックしてから入っていくと、窓ぎわにくつつけた机を背に椅子をこちらにむけて座つてた細井先生が、邪魔そうな目で俺たちを見た。

「なんや、呼んだのは菅野だけやぞ」

振りむいた七生も頬を怒りで赤くしたまま、出てけっていうような目で俺らをにらんでいた。

「おまえらは来んでもええ！ これは僕と細井先生の問題なんや」

僕と細井先生の問題って……いったいどんな問題なんやろ。かえつて気になるやんか。

「私は吹奏楽部の副部長ですから、部活に關係あることやつたら聞く権利くらいあると思うんですけど。……ここにいるほかのみ

んなも、いつしょにずっとクラブを運営してきたんですから、何があったのか教えてください」

望が一步前に出て、細井先生にかけあつた。七生はこんどは黙つて、先生のことをにらみつけていた。

「ええやろう。今度の※<sup>2</sup> ドリルフェスティバルの話やが、おまえら顧問の引率もなしで出場しようとしてたそやないか」

細井先生の言葉にすぐ望が反論した。

「引率は、西先生が会場の出場受付のところまでついてきてくださることになります！」

「しかし、そのあとは指導者もなしに、ドリル部門に出る予定やっちゅうやないか。中学生はふつう、全市合同バンドで出るか、または※<sup>3</sup> マーチング部門に出るか、どちらかと※<sup>4</sup> 相場が決まっている。一校のみで、しかも※<sup>5</sup> 身の程知らずにもドリル部門やとは、②他校の先生方の前でとんだ恥をかかされてしもた。今からでも、マーチング部門に登録しなおしなさい。でなければ、これから短い期間しかないが、私が君らの指導をしてやる」

そのとき、俺には七生の脳天からドッカーンと爆弾が撃ち上がるのが、見えた気がした。

「ええかげんにせえよ！ なにが恥なんや。生徒だけでドリルに挑戦することの、どこが恥なんや。そらあ、指導してくれる先生のおる学校とくらべたらかなりヘタかもしねへん。けどな、部員みんな一人一人、ちゃんと自分の役割を理<sup>a</sup>カイして、みんな精<sup>せい</sup>一杯努力してきたんや。……みんな、一人一人、自分で自分にbナットクできるように、がんばったんや。僕らがずっと練習してきたのは、あなたの名譽のためなんかとちやうんやからなっ！」

七生は、両手の握りこぶしを叩きつけるように上下に振りながら、怒鳴りちらした。③俺も思わずいつしょに、こぶしを握りしめていた。武司たちも同じや。ずっと俺らだけでがんばってきたのに、いまさら口出しなんかされたくない。俺らの演奏を聴いたこともないくせに、恥なんて言われたくない。

「先生の名譽のためにやれ、とはゆうてへんやろ。わずかの期間でも私が指導したほうが、おまえらの演奏もうまくなると思つて、吹奏楽部のためを思つてゆうてるんや」

「いまさらあんたに習つても、みんな混乱するだけで上達なんかせえへんわい！」

「菅野！ おまえ、どんくらいドラムが叩けるのか知らんが、教師にむかってその口のきき方はなんや！ ……だいたいおまえは、

ほかの部員たちに対しても、まるで教師のような偉そうな口をきいてるそやないか。部活を※<sup>6</sup>私物化して自己満足の道具にしてるのは、先生より菅野のほうとちやうのか？」

先生はだんだん、なんか妙に落ち着こうとしてる。口調になつて、④ゆっくりと追いつめるように言った。

いつか七生が、俺の部屋でゆうてた言葉を思い出したんや。誰にも好かれたいと思ってへんつて、偉そとか見下してるとか言わ  
れてもかまわへんつて、完璧な音の中に自分を置きたいとしか考えてへんつて、七生はあのとき、ゆうた。そして俺は、それじゃ  
ブラバンの仲間はただの音を出す道具やないか、とゆうた。

たぶん、今では七生もそんなふうには考えてなんかいなと思うけど、あのときあんなことを考えてたんやつて、思い出すのは  
すごくつらいことなんとちやうかな。

七生はギッと下唇をかんで、上目づかいに細井先生をにらんでいた。ふつうならポンポンと返るはずの反撃の言葉が、なかなか  
か出でこない。そのかわり、雅恵が反論した。

「先生、そういう言い方はひどいんちやいますか？ 確かに菅野くんは厳しいんですけど、それは本来顧問の先生がやつてくれるこ  
とを、かわりにやってるだけなんです。部員みんなが、練習してきてよかつたなあって思えるような演奏ができるよう、あえて  
キツい指導をしてるんです。絶対に、自己満足のためなんかと違います！」

望とくらべたら、おおやけの場や先生の前なんかで積極的に意見言うタイプの子と違ったのに、本当に全身に力をこめて懸命にしゃべつ  
ている。⑤七生も驚いた表情で雅恵を振りかえった。少し困ったような、とまどった顔にも見える。  
しかし細井先生のほうもメゲてない。

「とにかく、出場したいなら練習を見せてもらう。それで一定レベルに達していなければ、今年のフェスティバルには不参加にするからな。参加の場合も、引率と指揮は私がする。それがいやなら私の※<sup>7</sup>権限で参加をとり消すことになるから、そのつもりで  
いる。これは決定事項で、変えるつもりはないから、わかつたな。……わかつたら、早出ていけ」

⑥先生は不機嫌に顔をしかめ、最後は投げやりな調子で吐き捨てた。

七生は反論不能な状態やし、結局ついてった四人も黙って引き下がる形で、新音楽室から戻ってきた。俺は、ほとんど泣きそうになつて、ただ七生の落ちこんだ顔を見てるだけやつた。

望は練習開始の集合のとき、七生にかわって細井先生のゆうた話のだいたいの内容と、変えられてしまつた明日からの練習予定をみんなに話した。みんな口々に質問したり不満ゆうたりするなかで、望は一人でがんばって説明を続けた。……望、おまえは偉いやつちや。今までただのおしゃべりな※<sup>8</sup> ゲラ子やと思ってたけど、俺はおまえのこと見直したぞ。

でも、望が必死で説明してるのに、血の気の多い金管の男子たちは、おさまらなかつた。

「菅野、おまえ、ほんまにそれでええんか？ あんな細井なんかに、ほんまにまかせるんか？」

「おまえが行つとつて、なんで黙つて引き下がつてきたんや」

いつも※<sup>9</sup> パーカスといっしょに部屋の後ろに※<sup>10</sup> 陣じんどつてゐる、※<sup>11</sup> ペットやボーンなどの金管パートの男子たちが、通路を七生の座つてゐるいちばん前の席まで駆けおりていつた。（音楽室の床には、なだらかな傾斜がついてゐる。）うつむいたままだつた七生が、顔を上げてみんなのほうを振りむいた。

「僕かて、おまえらにとつて細井と変わらへん偉そうな独裁者なんやないか。まだちゃんとした教師なだけ、細井のほうがマシやろ」

七生の顔は青ざめてて、声も小さくて、なんだか自分に対して自信をなくしてゐる感じがした。

俺、なんか腹が立つてきつた。細井先生に對してじゃなく、今、目の前にいてる七生に對して。たとえどんなひどいこと言われたとしても、※<sup>12</sup> 土壇場でこんな弱氣になるような奴、ほんまの七生と違つ。ほんまもんの七生は、どこ行つた。

「逃げたらあかんやんか！ 前の七生がどんな考へでいてたかなんて、今は関係あらへん。みんなは音を出す道具なんかとちやう、心をひとつにできる仲間なんやつて、今はちゃんとわかってるんやろ？ ……ほんなら、七生かて、ちゃんと俺らの仲間やんか！」

俺はいちばん後列の自分の定位置で立ち上がつて、七生にむかつて叫んでた。部会とかクラス会なんかで発言したこと一回もなかつたから、ゆうてから緊張してしもて、顔から火い出そや。けど、すぐみんな口々に同じようなこと言いはじめたので、俺

も気が楽になつた。

「英二くんのゆうとおりやわ。<sup>(7)</sup> 菅野くんと細井先生がおんなんじなわけないやんか。菅野くんは私たちの仲間やもん」

雅恵も俺の隣で立ち上がってゆうてくれた。

「確かに、最初はなんちゅう生意氣でいやな奴やて思たし、練習もキツかったけど……でもやっぱり先生に教わってるんと違て、自分らでやってるんやて、おれらも自分に自信持てたと思うんや。おんなんじ仲間同士でやってる思たら、すげい自由な氣いするやん。技術面とか厳しいこと言われても、精神的にみんな自由やつたと思うんや、おれは。そんで、このままずっと自由でいたいとも、思う」

武司も、七生の目の前に立つて、静かにそう語りかけた。七生はじつと武司の顔を見上げて、それから音楽室じゅうの部員たちをずっと見渡していった。そして教卓のむこうに立つてた望まで全員見ていったと思うと、※<sup>13</sup> 唐突にパンッと机に両手ついて立ち上がつた。

「よし、わかった！ もう、細井の言うとおりにはせえへん」

そして、七生は机を軽く飛び越えて教壇に立つた。かと思つたら、すぐに弾みをつけて、ヒョイと教卓の上に飛びのつてあぐらかいて座つた。<sup>(8)</sup> 片頬だけをゆがめたような不敵な笑みと、にらむように鋭い眼差しが戻ってきた。

「細井の言うこときくフリして、土壇場で鼻をあかしたる。これから、作戦会議やるぞ。」

おおーっ！ というみんなの歓声が、古い音楽室を揺るがして響いた。

(風野 潮『ビート・キッズ Beat Kids』より)

※1 逆上

： 激しい怒りなどから、興奮してしまいういふ。

※2 ドリル

： マーチングの一種。隊列を組み、歩きながら演奏、演技すること。マーチングよりも音楽的要素が強い。

- ※3 マーチング  
相場が決まっている  
相場が決まっている
- ※4 身の程知らず  
身の程知らず  
身の程知らず
- ※5 私物化  
私物化  
私物化
- ※6 権限  
権限  
権限
- ※7 権限  
権限  
権限
- ※8 ゲラ子  
ゲラ子  
ゲラ子
- ※9 パーカス  
パーカス  
パーカス
- ※10 陣どってる  
陣どってる  
陣どってる
- ※11 ペットやボーン  
ペットやボーン  
ペットやボーン
- ※12 土壇場  
土壇場  
土壇場
- ※13 唐突に  
唐突に  
唐突に
- 人などと行進するバンドのこと。  
たいていそういうことになっている。  
マーチングバンドとも言う。歩きながら楽器演奏し、ときにはダンスマチムや、旗を振る  
たいていそういうことになっている。
- 自分の身分や能力などの程度を理解せず、発言したり行動したりすること。  
公共のものを自分のもののように好き勝手に使うこと。  
ある人や団体が何かを行うときに、ルールの中で行うことができる範囲。  
すぐにゲラゲラと笑い出してしまう人。  
パーカッションとも言う。ドラム以外の打楽器のこと。  
ある場所を自分のものにすること。  
トランペットやトロンボーンを略した言葉。どちらも金管楽器の一種。  
決断をせまられる、最後の場面。または、進むか退くか決めなければならぬ場面。  
急に。

問一 ～～線部について、次の問い合わせに答えなさい。

(1) ～～線 a 「カイ」と同じ漢字を使つた文を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、坂が急だと、エンジンのカイ転数が高い。

イ、この場所で原始時代のカイ塚が発見された。

ウ、この会社にはカイ革というものが必要だ。

エ、機械を見るとすぐに分カイしたくなる。

(2) ～～線 b 「ナットク」を漢字で答えなさい。

(3) ～～線 c 「口調」の読み方をひらがなで答えなさい。

問二 ――線①「そつがない」の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、やることにむだがないこと。

イ、発言がいいかげんであること。

ウ、他人に気づかないこと。

エ、元気に活動ができないこと。

問三 ――線②「他校の先生方の前でとんだ恥をかかされてしまふ」とあります。細井先生は何を「恥」と思つてているのです

か。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、顧問である細井先生から見て、吹奏楽部の演奏は上手ではなく、ドリル部門に出場できるレベルになつていないこと。

イ、指導もできず、引率しかできない西先生が吹奏楽部の顧問であることを他の学校の先生に知られててしまったこと。

ウ、吹奏楽部が難しいドリル部門に登録していたのを、細井先生はフェスティバルの話し合いで初めて知ったこと。

エ、西先生がフェスティバルの参加に関わるルールを知らず、吹奏楽部が出場できないドリル部門に登録してしまったこと。

問四

——線③「俺も思わずいっしょに、こぶしを握りしめていた」とあります、このとき英二はどのように考えましたか。

最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、細井先生に反抗すると吹奏楽部の活動が邪魔されてやりにくくなるので、ここはじっと我慢するしかない。

イ、細井先生の指導を受けた方がうまるなるが、七生との友情を考えると、それは言い出せず気まずい。

ウ、細井先生の権限で、今まで協力しながら作り上げてきた吹奏楽部の活動ができなくなりそうで悲しい。

エ、細井先生は部員が自分たちだけで作り上げてきた努力を知らないのに、吹奏楽部をけなすのは許せない。

問五

——線④「ゆっくりと追いつめるように言った」とあります、細井先生はどのような目的でそうしましたか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、自分の許可がないと吹奏楽部の活動は絶対にできないことを七生に気づかせるため。

イ、感情的にならず、七生の行動の問題点を冷静に突くことで、彼を言い負かすため。

ウ、感情的になっている七生や英二を落ち着いて説得し、部員との関係をよくするため。

エ、はげしい怒りによって、七生の発言が本題からずれてしまつたことを彼に教えるため。

問六

——線⑤「七生も驚いた表情で雅恵を振りかえった」とありますが、七生はどういうことに驚いたのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、いつもは礼儀正しい雅恵が、細井先生に対して乱暴な言葉づかいで反論をしたこと。

イ、普段は感情的のものを言う雅恵が、今日に限って妙に落ち着いて反論をしたこと。

ウ、日ごろあまり意見を言わなかつた雅恵が、七生のために細井先生に対して反論をしたこと。

エ、これまで筋の通つた発言をしてきた雅恵が、まったく関係のない反論をしたこと。

問七　——線⑥「先生は不機嫌に顔をしかめ、最後は投げやりな調子で吐き捨てた」とあります、細井先生はなぜこのようになったのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、七生だけを相手にしていたつもりだったが、部員が彼を感じていてことを知り、自分が不利だと感じたから。

イ、七生だけでなく、英一や雅恵までもが感情的になつて責めてきたので、あまりの勢いにうろたえてしまつたから。

ウ、雅恵の意見がしつかりとしているので、反論できないほど完全に言い負かされてしまったと感じたから。

エ、七生、雅恵、英一の意見がまとまつていないので、一人ずつ反論すれば簡単に説得できると思ったから。

問八　——線⑦「菅野くんと細井先生がおんなじなわけないやんか」について、次の図のようにまとめてみました。後の

□ A • □ B • □ C に当てはまる言葉を、それぞれ探し、本文中から抜き出して答えなさい。

● 細井先生……他人の話を聞かず、自分の意見を押しつける □ A (七字)

● 七生……以前他の吹奏楽部員を □ B (六字) だと考えていた。

「おんなじなわけない」

【現在】みんなを □ C (十一字) だと理解している。

問九

——線⑧「片頬だけをゆがめたような不敵な笑みと、にらむように鋭い眼差しが戻ってきた」の「不敵な笑み」とは、こ

こでは「何者をも恐れず、何かをたくらんでいるような笑顔」という意味と考えられます。このときの七生の気持ちとして

最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、細井先生の指導を受けなければならなくなつたのは悔しいが、とりあえずは吹奏楽部が続けていけることと、ドリル部門に出されることに安心している。

イ、これからも七生を中心に部員だけで活動していきたいというみんなの本音が確認できたので、自分のやり方を押しつける細井先生を見返してやろうという気持ちになつてている。

ウ、今までどおりにやりたいという部員の気持ちはわかるものの、細井先生に一方的に責められ、ドリル部門には出場で

きないので、投げやりな気持ちになつてゐる。

エ、細井先生とはげしく言い争いをしたとき、吹奏楽部員のだれもが、自分と同じ気持ちでいてくれたことに気づき、心から喜んでいる。

問十 本文中の ※ にあてはまる言葉として最も適當なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、マーチング部門でがんばってみようや！
- イ、練習サボって出場辞めたらや！
- ウ、こうなつたら、ブラバン解散しよか！
- エ、僕らの自由は僕らで守るんや！

問十一 本文中に書かれた内容として最も適當なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、英一は、雅恵ほど冷静に細井先生への反論ができたわけではなく、また望ほど他の部員にうまく説明ができたわけでもなく、自信をなくしてゐる。

イ、英二の発言をきっかけにして、七生は部員たちが自分とともに活動したいと思ってくれてることに気づき、自信を取りもどしている。

ウ、細井先生は、本当は吹奏楽部の指導をしたくて仕方がないが、七生が他の部員をまとめてしまい、自分が入れないとをさびしく思つてゐる。

エ、七生は、引率しかできない西先生が顧問であることを不安に思つており、音楽教師の細井先生に指導をお願いしたいが、無理なので自分でやつてゐる。

## 第二問題 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

入門書。これほど空しい本もありません。

① クラシック音楽の魅力を説く。これほどバカバカしいこともありません。

あなたはあるひとを好きになつたとき、ある店のラーメンをおいしいと思ったとき、お酒の味がわかつたと思ったとき、スポーツの試合に勝つて※<sub>1</sub>有頂天になつたとき、いちいち説明を読んでそくなつたのでしょうか。いいえ、違うでしょう。もっと※<sub>2</sub>直感的に、瞬間に、理屈抜きに、※<sub>3</sub>自発的に、ああ、好きだ、いい、おいしい、嬉しい、そう思ったのではないですか。誰も行つたことがない※<sub>4</sub>秘境の魅力を語る。これには意味があるでしょう。誰も知らないのですから。しかし、クラシック音楽は、すっかり日本に定着しています。嫌でも学校の授業の時間に聴かされるし、楽器を習う人は多いし、あちこちのBGMで使われているし、何を今さら。おまけに、現在では無料で聴ける音源がインターネット上にいくらでもあります。モーツアルトのピアノ曲をたまたま聴いて、いいなと思ったら、「モーツアルト」、「ピアノ」などと入力して※<sub>5</sub>検索すればいくらでも見つかるのです。入門も何も……。好きになつたら、あとはどうにでもなるのではありませんか。

残酷なようですが、初めにはつきり書いておきます。もしあなたが、この本を読んだらクラシックが好きになれるかもしれないと思つていたら、それは間違います。好き嫌いはどうにもなりません。何かを好きになるのは、運命の出会いのようなものです。興味がなかつたもの、嫌いなものが何かの拍子に好きになるのは、他に比べるものなき幸運にほかなりません。

( a )、この本は何のために存在するのでしょうか？ それは、たまたまクラシックはいいなと思った人、クラシックはおもしろいかもしれない好奇心を抱いた人に、「クラシックとはだいたいこんなもの」という※<sub>6</sub>俯瞰的な見取り図をお見せするためです。個別的で細かな情報は、今や誰でも検索して調べることができます。そういう時代です。ただ、そうやって手に入れる情報にはウソや間違いも多いのだけれど、②それしか見ていない人には、見抜けません。だから、あまり変なほうに進まないための③おおまかな地図。それが本書のひとつめの目的です（変なほうに進んでもそれはそれでおもしろいかもしれませんが、そういう自分流の冒険が好きな人は入門書を必要としないでしょう。私が書くことなど無視して、どんどん好きな方向へ突き進んでください）。

大きさがわからない迷路に投げ込まれたら、誰でも大きな恐怖を感じるでしょう。だけれど、それが何メートル四方か聞いたら、だいぶ不安は薄らぐでしょう。昔のヨーロッパの冒險家たちも、だいたい何十日航海したらインドへ到着するはずだと推論できたからこそ、大海原に乗り出せたのです。おおざっぱでいいので、とりあえずこれくらいという大きさのイメージを持っていただけたのです。日本史や世界史が、教科書一冊の分量で※<sup>7</sup>くまなく述べられるわけはありませんし、個々の歴史的なできごとについて異なる考え方もあるでしょうが、それでも教科書を読めば歴史に関するひとつまとまつた※<sup>8</sup>知見が得られる。それと同じです。

本書のふたつめの目的は、深いところが見えるようにすることです。あるいは、経験が浅くてまだ見えないなりに、あそこに深みがあるのではないかと感じ取ってもらうためです。もちろん、限られた分量の本ですから、やれることは多くはありません。しかし、いろいろなヒントをちりばめたいと思っているのです。

もしも、外国の名作文学について詳しくなりたいと思ったら……簡単です。ゲーテの『ファウスト』でも、フローベールの『ボヴァリ夫人』でも、トルストイの『戦争と平和』でも、※<sup>9</sup>翻訳者によつていくらか違いがあるとはい、文庫本を買うなり、図書館で借りるなり、とにかくどんどん読んでいけばいい。それしか方法はありません。( b )、コツなどというものはまず意識しなくていい。

( c )、クラシック音楽はそうではないのです。多くの読者は、刺身を買ってきて家で食べたり、冬になれば家族で鍋を囲んだりすることでしょう。その際にはごく当たり前に、醤油やポン酢をつけて食べていることでしょう。たいていの方は、調味料が無駄になるのが嫌で、「まあ、とりあえずはだいたいこれくらいかな」という量を小皿に注いでいるのではないでしょう。足りなくなれば注ぎ足せばいいわけです。

ところが、です。④いつも使っている醤油やポン酢を、思い切ってなみなみと注いでみてください。三倍とか五倍とか。すると、明らかに、おいしいのですよ。特に、二切れ、三切れ、四切れと進むほどに、驚くほど違います。足りなくなつたから、またちょっと注ぐということではなくて、最初からなみなみと。これがコツです。

こういうコツによって、楽しめる度合いが変わってくる、おそらくその※<sup>10</sup>典型的のひとつがクラシック音楽なのです。

(5) ちよつとばかり、自分のことを書かせてください。小学生の私が、釣りを好きになったときの経験です。ある夏のこと、

休みで退屈している私を、知り合いのおじさんがたまたま小さな川に連れて行ってくれました。それまで私は、釣りや魚になど、まったく興味を持つていませんでした。そこで私はある決定的なことを経験したのです。

氣味の悪い虫が餌でした。どうやって針に刺すかも知らなかつたし、第一触りたくなかつたので、最初はおじさんにつけてもらいました。「適当にそのへんでやつてごらん」と言うと、おじさんはもう自分の釣りに夢中で、私のことなど構つてくれませんでした。「魚がかかつたら、ウキが動くから、そうしたら引き上げればいい」と言わされて、私は放置されました。短い竹竿。最低限の針や糸。

しかし、私は少しやつてみて、あることに気づいたのです。水中が少しばかり透けて見えました。魚が餌をつつくのが、うつすらと見えるのです。そして、つづいた瞬間に竿を上げると、魚がかかるのです。つつき方がほんの少々なので、ウキは動きません。ウキを見ていては釣れないのです。実はこれは、私が子ども用の短い竿を使っていたから気づいたことなのです。大人は長い竿を使っているから、何メートルも先の魚など見えなかつたのです。

(6) この秘密に気づいた私は、大人の誰よりもたくさんの魚を釣つてしましました。少年の日の私にとってもっとも幸せな体験のひとつです。あまりたくさん釣るので、不思議に思ったおじさんが、私のそばにやってきました。「なんだ、見えるじゃないか」と言つたときの彼のくやしそうな声は今でも忘れられません。

自分で見つけること。本当の人生の歓びは、人に教えてもらうもの、与えてもらうのではなくて、自分自身が見つけたり遭遇したりするものではないでしょうか。そのとき、世界の中に存在する何かと、ひとの心の中の何かが敏感に反応しあつて、神秘的な幸せ、無限の宇宙の複雑なパズルの※12 一片がわかつたような※13 恍惚が生じるのではないか。

ですから、どうぞこの本を手に取って、クラシックの世界の中へと踏み込んでみてください。先は急がなくてもいいのです。ゆるゆると※14 散策するつもりで。飛ばし読みでも大丈夫です。そして、気になる作曲家、作品、演奏家がいたら、聴いてみてください。そして、「あなたの美」を見つけてください。

クラシックは縦横の線だか表のようなものだと思つてください。縦線は作曲家や作品、横線は演奏家です。作曲家がいなければ、

音楽は生まれません。しかし、演奏家がいなければ、現実の音として聞こえきません。作曲家と演奏家の絡み合いこそが、クラシックの楽しさであり、ややこしさであります。どちらに興味をひかれてもいいので、おもしろそうだと思つたら聴いてみる、ただそれだけを考えればいいのです。

(許光俊『はじめてのクラシック音楽』より)

- |     |      |                                    |
|-----|------|------------------------------------|
| ※1  | 有頂天  | ：あまりのうれしさのために、ほかのことを考えられない状態。      |
| ※2  | 直感的  | ：感覚によって、あつという間に物事を感じ取る様子。          |
| ※3  | 自發的  | ：自分から進んでおこなう様子。                    |
| ※4  | 秘境   | ：外部の人人が入ったことがないために、その様子が知られていない地域。 |
| ※5  | 検索   | ：調べて探し出すこと。                        |
| ※6  | 俯瞰的  | ：高い場所から見下るすように、全体をながめる様子。          |
| ※7  | くまなく | ：すみずみまで。                           |
| ※8  | 知見   | ：実際に見て手に入れた知識。                     |
| ※9  | 翻訳   | ：ある言語を他の国の言語に移しかえて表すこと。            |
| ※10 | 典型   | ：同じ種類の中で、その性質を最もよく表しているもの。         |
| ※11 | 遭遇   | ：思いがけなく出あうこと。                      |
| ※12 | 一片   | ：一枚のうすいもの。ひとかけら。                   |
| ※13 | 恍惚   | ：心をうばわれて、うつとりすること。                 |
| ※14 | 散策   | ：散歩。                               |

問一

——線①「クラシック音楽の魅力を説く。これほどバカバカしいこともありません」とあります、その理由として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア、日本ではクラシック音楽にふれる環境は整っており、ふれようと思えばいくらでもふれることができるから。

イ、クラシック音楽を好きになるかどうかと、筆者がその魅力をうまく伝えられたかどうかとは無関係だから。

ウ、自分が好きになったものを説明するのは大変難しいため、伝わったかどうかの手ごたえがつかめないから。

エ、インターネット上にはクラシック音楽の情報が非常に多くあるため、あえて筆者が説明する必要はないから。

問二

(一 a)、(二 b)、(三 c)に入れるのに最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a ア、そして イ、では ウ、ところで エ、しかし

b ア、ところで イ、もし ウ、つまり エ、しかし

c ア、ところが イ、ところで ウ、また エ、なぜなら

問三

——線②「それ」が指す内容の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、インターネットで探せば簡単に見つかる具体的な情報。

イ、本を使って調べればすぐにわかるような大まかな情報。

ウ、くわしい人ならすぐわかる、ウソや間違いが多い情報。

エ、初心者が見てもクラシックの流れが簡単にわかる情報。

問四

——線③「おおまかな地図」について次の問いに答えなさい。

- (1) 筆者は、どのような目的でこの本を作ったと述べていますか。本文中から四十字以内で探し、初めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。
- (2) この「地図」と同じような役割をもつ具体的なものを、本文中の言葉を使って十字以上十五字以内で答えなさい。

問五

——線④「いつも使っている醤油やポン酢を、思い切ってみなみと注いでみてください」とありますが、これはクラシック音楽のどのような面を説明するための例ですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、コツを知っていることで、思いもよらない楽しさを味わうことができる面。

イ、たくさんの曲を聞いていくことによって、その良し悪しがわかってくる面。

ウ、コツなどは一切考えず、一曲をていねいに聞くことで楽しさを味わえる面。

エ、数の上限を設げず、ひたすら聞くことでだんだん楽しみがわかってくる面。

問六　——線⑤「ちょっとばかり、自分のことを書かせてください」とありますが、この体験談はどのようなことを伝える目的

で書かれたものですか。本文中から目的を述べた段落を探し、初めの四字を抜き出して答えなさい。

問七　——線⑥「この秘密」とあります、それはどのようなことですか。「～ということ」が続くように、本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問八　この文章の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、同じような言葉を繰り返すことでクラシック音楽の印象を読者に与え、記憶に残るような工夫をしている。

イ、「～のような」といった表現を多く使いながら、クラシック音楽に親しみやすさを感じさせている。

ウ、クラシック音楽に詳しくない人が楽しんで聞くコツがつかめるように、たとえ話を効果的に使っている。

エ、読者に対して呼びかけるような言い方を多く使って、読者にクラシックの楽しさを伝えようとしている。

第三問題 次の一線部の文字や言葉の使い方が正しければ「○」を解答欄に記入し、間違っていれば正しく訂正しなさい。

- ① 卵焼きを作るのは、簡単なようで以外と難しい。
- ② この本はおもしろいので、無我夢中で読んだ。
- ③ その島には漁業を営む人たちが住んでいる。
- ④ 美術館で、先生の描いた作品を拝見する。
- ⑤ 彼女はいつも歯に衣着せぬ発言をする。

**第四問題** 次の会話文を読んで後の問い合わせに答えなさい。

生徒A 「『絵本よみきかせ会』のポスターを書いてきたよ」

生徒B 「私も書いてきたけど、どうかな」

生徒A 「私の案は説明が少なすぎるね。Bさんの方にしようよ」

生徒B 「Aさんの案の方が見やすくていいと思うんだけど……」

生徒C 「それならAさんの案にBさんの案の説明を付け足したらどうかな」

生徒A 「それがいいね。そうしよう。」

生徒B 「中学一年生が読むことは当日にアナウンスするから、省略していいかもしないね」

生徒A 「分かった。書き直してみるね……こんな感じかな」

生徒C 「あ、□を書きわすれているよ」

生徒B 「ありがとう。参加する人が困るところだったよ」

生徒A 「私の案にも、Bさんの案にも書いていなかつたね。※のところに書き足すよ」

**問一** 会話文について述べたものとして最も適当なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、生徒Aは、理由を説明せずに生徒Bの案を使おうとしている。

イ、生徒Cは、生徒Bの案よりも生徒Aの案の方がよいと考えている。

ウ、生徒Cは、生徒Aの案と生徒Bの案のよいところを活かそうとしている。

エ、生徒Aは、生徒Bの案の中でも特に重要な情報を使おうと提案している。

**問二** 次のページの生徒Aが書き直したポスターの①、②にはどのような言葉を入れればよいか、それぞれ適当なものを考えて

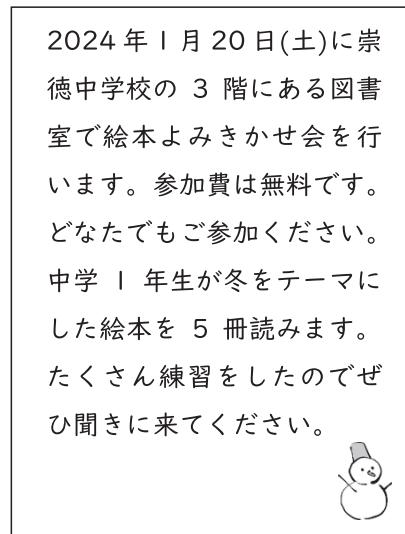
答えなさい。

**問三** 会話文の□に当てはまる言葉を考えて答えなさい。

生徒Aの案



生徒Bの案



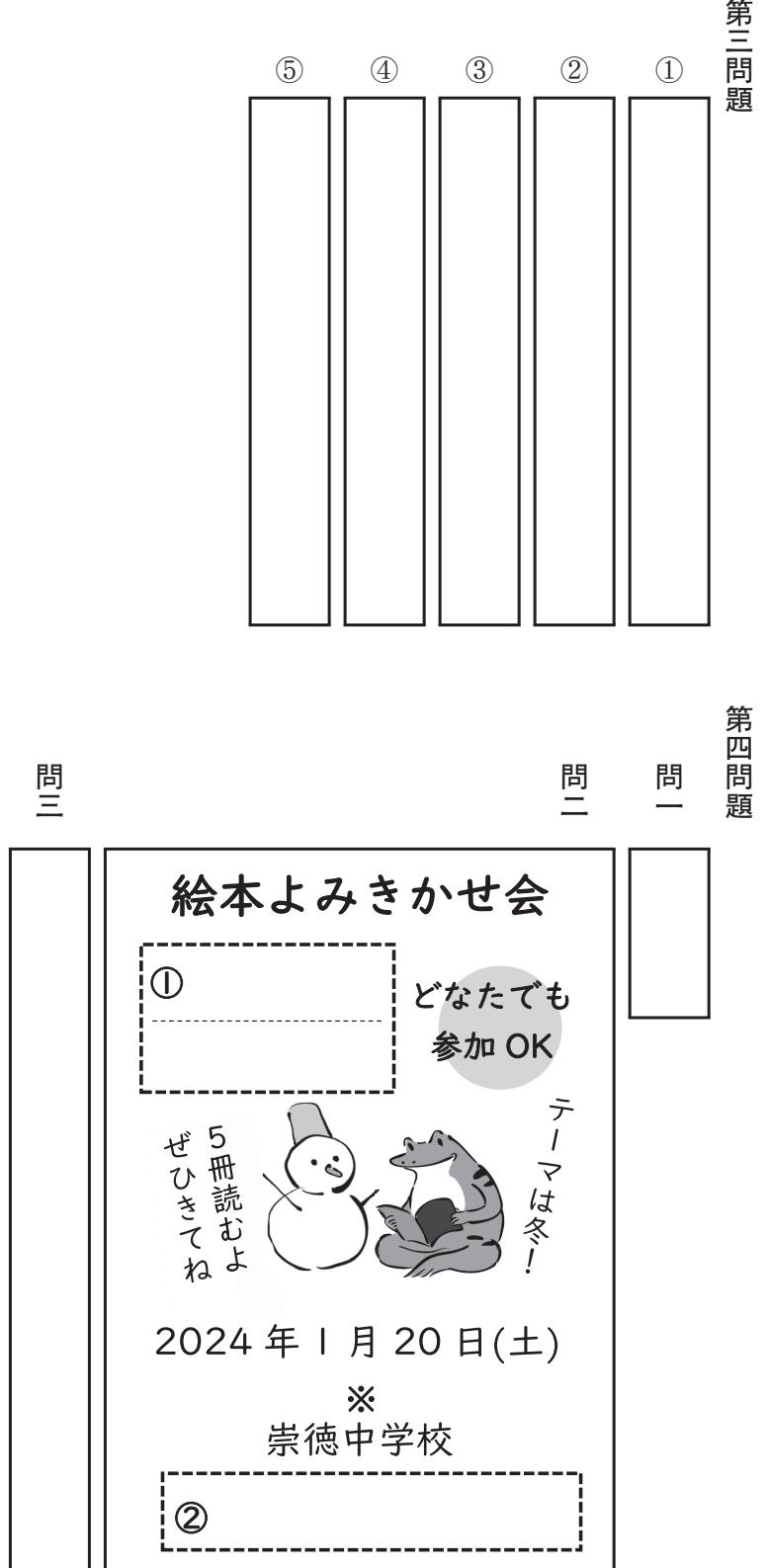
令和六年度 中学校A日程入学試験問題 解答欄らん〔国語〕

# 解答欄

# 欄

國語

受験番号	名前	※得点
------	----	-----



第二問題

問八

問七

問五

問四

問三

問二

問一

問九

問十

問十一

問十二

問十三

問十四

問十五

問十六

問十七

問十八

問十九

問二十

問二十一

問二十二

問二十三

問二十四

問二十五

問二十六

問二十七

問二十八

問二十九

問三十

20

10

10

30

と  
い  
う  
こ  
と。